

科目名	副専攻実技 I ～VI	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	2～4

＝授業科目の目標＝

主専攻と同等の学究的な探究をめざし、且つ、より多くの労力を注いで学ぶ主専攻に対し、副専攻は、あくまで専門性を高め、技能を磨き、知識を深める立場から演奏力の向上を計る事を目標とする。

＝履修の条件と学習の方法＝

30分個人レッスン。

副専攻課程履修者の学部3期生（2年次春学期）より履修可とする。履修する場合は、必ず1年次の秋学期に、学務課へ副専攻課程の履修希望届を提出すること。主専攻と同様の楽器または専門は選択不可。初心者の履修は不可、主専攻に準ずるレベルとする。各自が十分に練習してレッスンに臨むこと。

＝授業内容＝

（2年次）

- 3期 1年次の主専攻の学びに基づき芽生えた学習の方向性を副専攻実技の楽器演奏へ導くことで技能の取得への具体的な道筋を示す。後に続く3年間の指針づくりとする。
- 4期 指針に基づいた知識と技能の伸張を目指し、3年次の学内演奏に耐える演奏技能の修得を目指す。

（3年次）

- 5期 2年次の1年間の学習経験とその成果に鑑みた学習計画の見直しを行い、中間発表としての学内演奏会の成功を期す。
更なる演奏経験の積み上げを企図する。
- 6期 公開演奏の経験をモチベーションに変えるべく鼓舞し、最終学年での到達目標を個人にあわせて調整する。

（4年次）

- 7期 2年、3年次の学習経験、並びに主専攻との関係性に配慮して副専攻としての学びが個人に及ぼす効果についての自己評価を視野に入れ、3年間の学習の集大成に向けて研鑽を積む。
- 8期 3年間の学習を1つの演奏に結実させるものとしての卒業演奏への動機づくりと位置付ける。且つ、演奏終了後、生涯学習に向けてのケアとフォローに努める。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

演奏試験による評価、または各実技担当教員が授業内での演奏技能の到達状況によって評価する。

＝その他＝

特になし